

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第40週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は581人(定点あたり18.2)で、前週比84%と減少した。

前週に比べ多かった主な疾患はなかった。減少した主な疾患は流行性耳下腺炎と水痘であった。

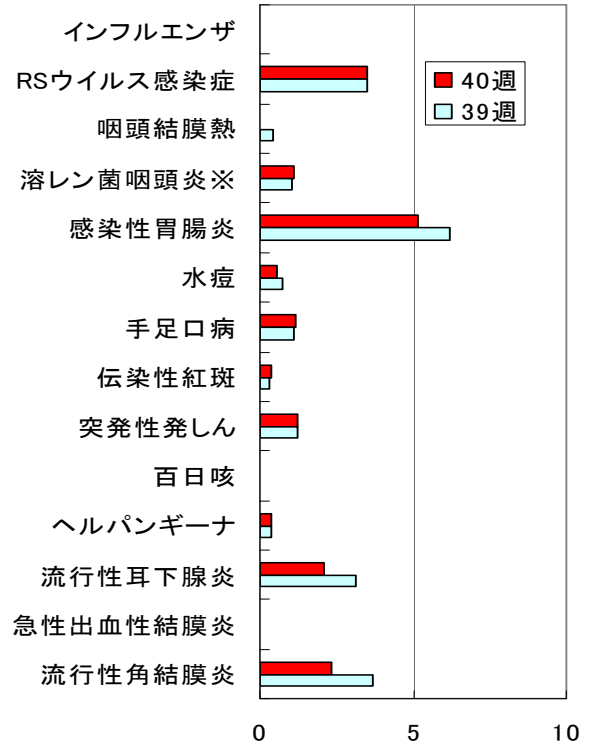
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は39人

(1.1)で前週比103%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点あたり平均値(0.95)と比較すると約1.1倍である。高千穂(8.0)保健所からの報告が多く、年齢別では4歳から8歳で全体の約8割を占めた。

RSウイルス感染症の報告数は126人(3.5)で前週比101%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点あたり平均値(0.8)と比較すると約4.4倍と多い。延岡(11.8)、日向(8.0)保健所からの報告が多く、年齢別では6ヶ月から2歳で全体の約8割を占めた。全て6歳以下の報告であった。

無菌性髄膜炎1人が宮崎市保健所から報告された。患者は9歳の男児で、原因菌はMumps Virus。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	1.1	高千穂(8.0)	4歳~8歳で全体の約8割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	2.1	延岡(6.0)	2歳~5歳で全体の約8割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症： 報告なし。
- 2 類感染症： 結核 2 例が宮崎市保健所から報告された。
 - ・ 60 歳代の男性で無症状病原体保有者。
 - ・ 50 歳代の女性で無症状病原体保有者。
- 3 類感染症： 報告なし。
- 4 類感染症： 日本紅斑熱 1 例が日南保健所から報告された。40 歳代の女性で発熱、刺し口、発疹、肝機能異常がみられた。
- 5 類感染症： 破傷風 1 例が宮崎市保健所から報告された。60 歳代の女性で筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害がみられた。

■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

□ 細菌（平成 22 年 9 月 28 日～10 月 12 日までに分離同定）

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同定日
病原血清型大腸菌(O157:H7 VT2)	80代前半	女	9.24	下痢	便	10.8
病原血清型大腸菌(O157:H7 VT2)	80代後半	女	9.28	血便	便	10.7
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m;-)	40代前半	男	10.4	発熱(37.8℃)、下痢、血便、腹痛	便	10.6
<i>Salmonella</i> Montevideo (O7:g,m,s;-)	60代後半	女	10.6		便	10.9
<i>Campylobacter fetus</i>	70代前半	男	9.30	発熱(37.5℃)TTP	血液	10.8

○先週に続き、今週も *Campylobacter fetus* (以下 *C.fetus*) が検出された。*C.fetus* 敗血症の患者は約70%が基礎疾患を有し、基礎疾患による免疫不全により易感染状態になると考えられる。また、感染持続期間も比較的長いという報告が多い。

なお、*C.fetus* は *C.jejuni*、*C.coli* と異なり、42℃では発育しないため、検査を行う際の培養温度に注意する必要がある。

□ ウイルス（平成 22 年 9 月 28 日～10 月 13 日までに分離同定）

同定ウイルス名	年齢	性	採取日	臨床診断名	材料	同定日
インフルエンザAH1pdm型	19	男	10.9	インフルエンザ、37.8℃、咽頭痛、頭痛	鼻腔ぬぐい液	10.13

○都城保健所管内で、インフルエンザA型の報告があった。本県では今シーズン3例目の報告である。遺伝子検査の結果、インフルエンザAH1pdm(新型)が検出された。

■ 全国第 39 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 8.8 で、前週比 110%と増加した。今週増加した主な疾患はインフルエンザと A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと咽頭結膜熱であった。

インフルエンザの報告数は 284 人 (0.06) で、前週比 150%と増加したが、例年同時期の約 1 割である。沖縄県 (0.57)、長崎県・熊本県 (各 0.14) からの報告が多く、年齢別では 5 歳以下が全体の 26%、6-9 歳が 15%、10-14 歳が 12%、15-19 歳が 10%、20 歳代-50 歳代が 29%、60 歳以上が 8%を占めた。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 2,294 人 (0.76) で、前週比 138%と増加した。例年同時期と同数である。北海道・山口県 (各 1.5)、石川県・鳥取県 (各 1.3) からの報告が多く、年齢別では 3 歳から 7 歳で全体の約 6 割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 314 例
- 3 類感染症 : コレラ 1 例、細菌性赤痢 11 例、腸管出血性大腸菌感染症 95 例
- 4 類感染症 : A 型肝炎 1 例、デング熱 9 例、レジオネラ症 10 例、レプトスピラ症 1 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 10 例、ウイルス性肝炎 2 例、急性脳炎 5 例、後天性免疫不全症候群 15 例、梅毒 9 例、風疹 1 例、麻しん 9 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第40週(10月04日～10月10日)

疾病名		第39週	第40週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数		3		3							
	定点あたり	0.00	0.05	0.00	0.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	125	126	21	13	47	2		11		32	
	定点あたり	3.47	3.50	2.10	2.17	11.75	0.67	0.00	2.75	0.00	8.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	15	3	1			1					1
	定点あたり	0.42	0.08	0.10	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	38	39	11	1	7	1	2	4	8	3	2
	定点あたり	1.06	1.08	1.10	0.17	1.75	0.33	0.67	1.00	8.00	0.75	2.00
感染性胃腸炎	報告数	223	186	23	35	24	12	19	22	3	37	11
	定点あたり	6.19	5.17	2.30	5.83	6.00	4.00	6.33	5.50	3.00	9.25	11.00
水痘	報告数	26	19	8	3	1			3		4	
	定点あたり	0.72	0.53	0.80	0.50	0.25	0.00	0.00	0.75	0.00	1.00	0.00
手足口病	報告数	39	41	5	5	12		1	13		5	
	定点あたり	1.08	1.14	0.50	0.83	3.00	0.00	0.33	3.25	0.00	1.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	10	14	3	4	1		4	1			1
	定点あたり	0.28	0.39	0.30	0.67	0.25	0.00	1.33	0.25	0.00	0.00	1.00
突発性発しん	報告数	44	44	12	4	11	9	1	2		3	2
	定点あたり	1.22	1.22	1.20	0.67	2.75	3.00	0.33	0.50	0.00	0.75	2.00
百日咳	報告数		2		1		1					
	定点あたり	0.00	0.06	0.00	0.17	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	13	14		2	1	5		4		2	
	定点あたり	0.36	0.39	0.00	0.33	0.25	1.67	0.00	1.00	0.00	0.50	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	112	75	12	5	24	4		10	1	19	
	定点あたり	3.11	2.08	1.20	0.83	6.00	1.33	0.00	2.50	1.00	4.75	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	22	14	12	2							
	定点あたり	3.67	2.33	4.00	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第40週)

2類感染症	結核	160例(2)				
3類感染症	細菌性赤痢	1例	腸管出血性大腸菌感染症	47例		
	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
4類感染症	デング熱	1例	日本紅斑熱	4例(1)	マラリア	2例
	レジオネラ症	2例	レプトスピラ症	2例		
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎	7例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒	5例
	破傷風	5例(1)	麻しん	1例		

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

食中毒に気をつけましょう。(10月4日～10月10日)

朝晩涼しくなってきましたが、日中は暑い日が続いています。運動会などの行事が多い時期です。お弁当を作る機会も多いと思います。食中毒に注意しましょう。

食中毒の一番の予防策は十分な手洗いです。調理の前、食事の前、トイレの後、介護や看護の後は石けんで十分に手を洗いましょう。また、台所は整理整頓し、まな板やふきんなどの調理器具はきれいに洗い、消毒を行うなどして清潔に保ちましょう。ハエ、ゴキブリ等は駆除しましょう。食材は流水で十分に洗い調理しましょう。肉や魚などの生鮮食品はできるだけ早く調理しましょう。調理するときは、食材を十分に加熱しましょう。冷やして食べるものや加熱できないものは食べる直前まで低温(10度以下)で保管しましょう。できあがった料理はなるべく早く食べるようにしましょう。冷蔵庫内の清掃を定期的に行いましょう。

これから、先週県内でも発生したノロウイルスによる食中毒が多発する時期になりますので、日頃から食中毒の予防に心がけましょう。

また、発生した際には、下痢や嘔吐などで脱水症状を起こさないよう注意し、体調が悪いときには無理をせず早めに医療機関を受診しましょう。